第11号
いろのいき
2013年7月発行

いのちの時間

認定特定非営利活動法人スマイルオブキッズ　代表理事　田川　尚登

前日の夜からの雨が雪になりうっすらと白い景色に変わり、明け方には止んで雲間から冬の日差しが病室に差し始めていました。

娘との別れの時間が差し迫り、関わりがあった方々から最後の言葉をいただきながらそのときを迎えました。悲しいかな神様から与えられた6年半のこの世での命の時間が終わってしまう瞬間でした。病気と闘いがんばっていた自分の子どもを看取るという瞬間を迎えるとは考えたくありませんでしたが、このような最期の時間を皆で共有できたことはたいへんありがたく、今から思うとよい時間をもつことができたと思えるようになりました。

神様から与えられた命を一生懸命生き抜いて最後の時間を迎えたときに、この子に祝福ができたような気持ちがときが経つごとにふつふつと湧いてきました。人間は誰でも生かされた命に終わりがあります。長い短いという時間の概念ではなく、生かされていた人が神から何を与えられて命を授かったかを考えるときを家族や関わった方々は一緒に考えてあげることが必要だと思いました。

小児の医療現場では命を授かってから間もなく体の中の異常がわかるようになりました。以前では助けられなかった命が救えるようになりましたが、それでも生後わずかな時間で命が尽きてしまう子どもたちも多く存在することは現実にあります。

日夜医療スタッフの方々が精いっぱいの努力をしてくださっています。小さな命は、短い時間でも使命をもってこの世にいらしてくださっています。ならば生まれたときと同じように最後のときも皆で看取ることができたならば素晴らしいことだと考えます。

少しの時間でも多く家族と過ごすことが子どもにとっては楽しい時間です。楽しい時間をお土産にまた天国へ帰っていきます。その最後の楽しい時間作りを支援することができればよいと私たちに一歩踏み出すきっかけを作ってくださった藤沢市の石川好江様の生前の思いを共に考えながら、今年度から緩和ケアも含めた楽しい時間のもてる看取りの場について考えていこうと計画を進めていきます。

妊婦さんもお世話になっています！

「え～、こども医療センターってお産できるのですか？」「こども医療センターに産婦人科があるなんて知りませんでした！」

以前はこのようなお声をいただくことが多々ありました。たしかに、子どもの病院になぜ産婦人科？　という疑問をもたれても、おかしくはありません。

実は神奈川県立こども医療センターは、全国の小児専門病院のなかで、いちばん最初に産婦人科ができた病院なのです。

産婦人科ができた1992年より前､低出生体重児（未熟児）や先天的な病気をもった赤ちゃんは、一般の病院や産院で生まれて、それから救急車でこども医療センターに運ばれてきました。生まれて間もない赤ちゃんにとって、救急車に揺られることは決してよいことではありません。また、生まれてから専門的な治療を開始するまで、数時間、ときには半日以上かかることもありました。

そこで、小児専門病院に産婦人科をつくって、低出生体重児が生まれそうなお母さんは、生まれる前にお母さんに転院していただき、たとえ生まれてしまってもすぐに新生児科の先生たちが治療を開始するようにしました。また、その頃から超音波検査装置が普及し、先天的な病気をもつ赤ちゃんも生まれる前に診断がついて、生まれた後の治療方針が立てられるようになりました。

現在、こども医療センターの産婦人科では、1年間におよそ500人の赤ちゃんが生まれていますが、そのうち低出生体重児が100人、なんらかの先天的な病気をもった赤ちゃんが200人近くを占めます。とくに赤ちゃんに先天的な病気がありそうだと言われた妊婦さんたちは、こども医療センターの小児科や心臓外科の評判を聞いて、全国からやってきます。そのような妊婦さんは、「リラのいえ」にお世話になることで、安心してお産ができているのです。本当にありがたく思います。

自宅から遠く離れた病院で、不安なお産を待つ妊婦さんたち。そのような妊婦さんたちにとって、「リラのいえ」はさぞ心強い存在でしょう。実際、「来週から『リラのいえ』に入れることが決まりました！」と報告してくださる妊婦さんたちのお顔は、とても嬉しそうです。そのようなご報告をいただくと､私たちも安心してお産に向けての準備ができます。妊婦さんとそのご主人は、「お腹の赤ちゃんのご両親」です。小児科のお子さんたちのご両親同様、今後ともよろしくお願いいたします。

神奈川県立こども医療センター産婦人科　石川 浩史

医療は人を支えるが、
医療も人の支えがないと成り立たない

「リラのいえ」開設５周年、おめでとうございました。６月１日の「リラのいえ」開設５周年の式典やロビーコンサートに参加させていただきました。仲間を増やして活動を広げ、「リラのいえ」を支えてきた皆さまに尊敬を抱きます。多くの人に＜リラのいえ＞の存在の素晴らしさを伝えたくて「がんばれ !! 小さき生命（いのち）たちよ」というブログでも以下のように紹介させていただきました。
（http://blogs.yahoo.co.jp/nicu_sp25/14647293.html）

＜さりげないやさしさ＞、＜自分でできることを実行、継続する大切さ＞ を「リラのいえ」や「オレンジクラブ」の皆さまは伝え、こども医療センターの雰囲気をやさしくしてくださっている大切な存在です。

新生児集中治療室 (NICU) に入院する赤ちゃんたちやご両親にとって、 面会制限のために一緒に来ても面会できないお兄さんやお姉さんたちの預かり保育の大切さは計りしれません。生命に関わる状況にあって、「リラのいえ」で夜の時間を過ごすご家族にとっても、大きな支えであることを実感しております。

「自分たちには何もできないと嘆くのでなく、自分たちのできることを探してやっていく」というのが、医療や福祉に関わる人間として、自戒を込めて大切な姿勢だと感じています。「リラのいえ」の皆さまにはあるその姿勢を、見習っていきたいです。

「医療は人を支えるが、医療も人の支えがないと成り立たない」とも感じています。＜あって当然＞と思っていると、いつか医療や福祉は破綻してしまうかもしれません。高度化が進む医学と財政難で縮小ぎみの医療の中で、こども医療センターが存続していくためには、地域のさまざまな人の協力や支援が必要です。「リラのいえ」の５周年式典の集まりで一緒に喜び合えたように、それぞれに何ができるかを考えながら協力の輪を広げていき、さらなる共助につなげていければと願っています。

海外の小児病院は街の人たちが誇りに感じています。病院チャリティーイベントにはたくさんの人が集い、病院の運営等への寄付が日本では信じられないほど多く集まるということです。こども医療センターが日本において、＜地域の誇りであり、地域で支えられている小児病院＞のモデルのようになっていけたらと夢見ています。＜リラのいえ＞や＜スマイルオブキッズ＞の皆さまの活動や願いを根幹に、よりよい小児医療を地域の中で実現し、リラのいえの創立 10 周年には、より多くの人たちとお祝いができたらと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

神奈川県立こども医療センター新生児科　豊島勝昭

高い稼働率への対応

こども医療センターに着任して、3カ月が過ぎました。
毎朝、JR東戸塚駅からバスに乗ってセンターに通っていますが、六ツ川四丁目のバス停を過ぎて右折すると、「リラのいえ」の前を通ります。

5月中・下旬には、芝桜がたいへんきれいで、赤と白と緑のコントラストは本当に素晴らしく、行き届いた手入れに感心していました。

6月に行われた5周年の記念式典に出席する機会がありました。そのときの関係者によるごあいさつや、式典時に配られた記念誌、その後大手新聞に5回にわたって連載された記事などを通して、「リラのいえ」に携わった多くの方々の思いやご苦労を改めて知った次第です。

「リラのいえ」には8つの宿泊室がありますが、毎日、ほぼ満室という状況が続いています。直近のデータによりますと、6月の稼働率は91.3%。利用された35家族のうち、6割にあたる21家族が北は北海道、西は岡山県という県外からで、この他2家族はアメリカから、残り県内利用者12家族のうち、センターが所在する横浜市在住の方は2家族という状況でした。

昨年度の稼働率は、年間を通して70.03%でしたが、今年1月から3月にかけては、毎月85%を超える稼働率であり、高い状況は今年度になってからも続いています。

「リラのいえ」の田川代表や関係者の皆さんとは、月1回定期的に運営会議を開催し、協議や意見交換を行っています。その際に話題となるのは、稼働率の上昇に伴って、地方からわざわざお越しになるご家族を優先するため、結果的に横浜市在住のご家族の宿泊を断らざるを得ないということです。皆さんのご希望に必ずしも添えないことが非常に心苦しく、対応策を考えなければいけないということが関係者の大きな悩みとなっています。稼働率の高い状況は今後も続くでしょうし、これから夏休みに入りますと、地方から宿泊を希望されるご家族も多くなって、調整がさらにたいへんとなります。

そうした関係者のご苦労やご努力に報いるため、また、何よりも当センターを頼って県内はもとより全国各地から来られる患者様やそのご家族のため、我々もできる限りのお手伝いをしなければならないと考えております。

神奈川県立こども医療センター事務局長　竹村 昭

第二の我が家として

正面玄関を入ると総合待合では、四季折々の飾り付けが患者さんたちを出迎えています。ボランティアの方々が行ってくださるこの飾り付けが、初めてこども医療センターを訪れる患者さんたちの不安を軽くしてくれるといいと思って見ています。

地域医療連携室の役割のひとつは、地域の医療機関から紹介された患者さんの初診日を調整し、できるだけ早く適切な医療が行われるお手伝いをすることです。地域の医療機関から、専門病院としてのこども医療センターを紹介されたとき、多くの患者さんやご家族は大きな不安をもって来院されます。できるだけ早く初診日の調整を行い、患者さんやご家族の不安を最小限にするように努めています。

現在、こども医療センターには年間約 7800 人の患者さんが紹介されて来られています。そのうち約 400 人が県外からの患者さんです。初診日のご連絡をする中で、県外からの患者さんからは、宿泊場所のご相談を受けることが多くありました。そんな中、一昨年 10 月に「リラのいえ」から、ご依頼いただき受診案内とともに「リラのいえ」のご案内をお送りするようになりました。子どもさんの受診を考えるだけで精一杯で、「自分たちの宿泊先を考える余裕がなかったため助かった」というご家族の声も聞かれるようになりました。

遠方から入院を余儀なくされた子どもさんのご家族は、知り合いのいない環境で、病気と闘う子どもさんに寄り添っていらっしゃいます。そんなご家族にとって「リラのいえ」は、本当に大事な存在だと感じています。ご家族が元気でいることが病気と闘う子どもさんを支えるためには重要です。滞在施設としての「リラのいえ」は遠方から面会に通う負担をなくすだけでなく、第二の我が家としての「安らぎ」と、同じようにがんばっている「他のご家族との関わり」を与えてくれる存在です。

第二の我が家としての「リラのいえ」は病気と闘う子どもさんにとっても、大きな存在です。長期入院中、治療のない日には外泊が可能です。遠方からの子どもさんは、「リラのいえ」へ外泊をされています。家族のぬくもりを感じながら眠る時間が、子どもさんたちの元気や翌日からのがんばりにつながっていくのだろうと感じています。

患者さんやご家族のがんばりを尊重するために、地域医療連携室が「リラのいえ」と協働してできることを考えながら、取り組んでいきたいと考えています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

神奈川県立こども医療センター地域医療連携室　西角 一恵

※当方のミスで 1 月発行の会報 10 号で西角一恵様の執筆された文章とは違う方の文章を誤って掲載してしまいました。
西角様にはたいへんご迷惑をおかけしてしまいました。心よりお詫び申し上げます。

「リラのいえ」とファンケルの出会い

ファンケルグループでは、社会貢献活動に参加したいと思う多くの従業員が、仕事の都合や、子育て、介護などで参加できないということがありました。その中で、身の丈にあった、継続可能な活動が何かできないかと模索するため、2005 年に「社会貢献活動部会」が発足したのです。

そこで制定された社会活動方針が「人々が美しく健やかに過ごせる明日のためにもっと何かできるはず」。目的は「地域とのつながり、ハンディキャップをもつ方々との交流を大切にします」でした。その方針を元に議論を重ね 2 年の歳月を経て、2007 年 6 月、働きながらでも無理なく参加できる社会活動・給与天引き型寄付活動として「もっと何かできるはず基金」（以下、もっと基金）が設立されました。

立ち上げるにあたり、規約はどうすればいいのか、従業員からの拠出金はいくらが妥当か、1 団体への寄付金額は？　などなど、決めなければいけない課題が山積みでした。が、立ち上げてみると従業員の賛同者（入会者）が予想より多い状況でスタートができ、従業員の意向に沿った基金がつくれたと思っております。また、ボランティア活動をしている従業員や、知り合いに社会貢献活動をしている人がいる、会社の近くに寄付支援をしたい団体があるなど、少しずつ寄付活動も社内に広まっていきました。

スマイルオブキッズの佐伯トシコさんがご来社くださったのはちょうどその頃。「リラのいえ」も開設を間近に控えた頃だったと記憶しています。佐伯さんと私の最初の出会いでしたが、諸事情等により、すぐに寄付をさせていただくことができませんでした。

その後私は、「もっと基金」の事務局を一時離れていたのですが、4 年ほど前に、再度事務局担当となった際、奇しくも、心残りだった「リラのいえ」への寄付が決まって、これから手続きをするところだったのです。嬉しかったですね。

「神奈川県立こども医療センター」に入院する子どもたちやそのご家族にとって、「よこはまファミリーハウス」と「リラのいえ」がどれだけ大きな存在であるか、そして「スマイルオブキッズ」の方々にどれだけ励まされてきたのかを知るにつれ、私自身も励まされてきました。

バザーに参加させていただいたとき、スタッフの方々やお客様たちのなんと温かいこと！昨年、本社で開催した「もっと基金」の運営委員会で、佐伯さんに講演をしていただきました。少人数の委員会なのに、快く引き受けてくださり、子どもやご家族の立場に立った「スマイルオブキッズ」の支援活動のお話に、参加していた運営委員は、感動と「寄付をしてよかった」という気持ちでいっぱいになりました。

株式会社ファンケル　横溝 ヒロミ

「リラのいえ」の皆さんとご一緒させていただいて

遅ればせながら、「リラのいえ」の皆さん、開設5周年おめでとうございます。ユック舎というごく小さな出版社をしております上野真と申します。この度、このような機会をいただいたので、皆さんと歩んだ8年間について、少しお話させていただければと思います。

「リラのいえ」の皆さんと出会ったのは、2005年暮れから2006年初めのことでした。CSRを始めようとしていた企業の仲介としてNPOを探していたとき、知人のマリ・クリスティーヌさんから「ファミリーハウスを運営している人たちがいる」と聞き、松尾忠雄さんを紹介されたのです。

当時は滞在施設開設に向けて準備委員会が立ち上がったときでした。僕自身も「ファミリーハウスとは何ぞや？」状態でしたが、松尾さんや佐伯さん、田川さん、岩崎さんの施設開設に対する思いを聞き、「ぜひ、滞在施設（『リラのいえ』）実現を見たい。仕事としても、個人としてもできることを何でもやろう」という気持ちを抱くようになりました。

その後、企業の支援が無事決まり、2006年のチャリティーピアノコンサートから「リラのいえ」に正式に関わるようになりました。それからはあっという間で、2006年後半には寛大なる寄付があったとのことで施設の建設が決定。翌年には着工して、2008年5月、遂にオープンしたのです。

オープン前まではコンサートの応援などで細々と携わってきましたが、オープン後は毎週金曜日、「リラのいえ」で夜勤をするようになっていました。そこでの経験は、本当に得難いものばかりです。宿直業務や緊急対応に関することはもちろん、ボランティアとしての心得を松尾さんや岩崎さん、山浦さんご夫妻に指導していただきました。また、こども医療センターに通われるご家族の方々からも人として、愛する子をもつ親として大切なことをたくさん教えていただきました。

「いってらっしゃい」「お帰りなさい」といった小さなあいさつや、ちょっとの立ち話・世間話でも、患児とそのご家族の方々のいろいろな思いが垣間見られます。ご家族の方々の状況を知り、その辛い心境を思うにつけ、僕のほうが打ちのめされてしまったものですが、ご家族の方々の強くたくましい姿勢に逆に勇気をもらったことが何度もありました。

その後、会社を継いで多忙になったり、同時期に母の病気が判明したりしたことで、夜勤のボランティアを続けるのが困難になってしまいましたが、会報誌の制作に携わるなどして、今も陰ながら「リラのいえ」の活動に参加させていただいています。

「リラのいえ」には、大切な人を思うことの尊さがあります。その意義を胸に、これからも意識を高くもって、個人として、ユック舎としてお手伝いを続けていきたいと思います。

株式会社ユック舎　上野 真

FM 戸塚へ寄せられたメッセージ
2013 チャリティーピアノコンサートの反響

今年のコンサートの感想ですが、感動しすぎて長くなってしまっています。素晴らしいひとときをありがとうございました。

ミューザ川崎で行われたスマイルオブキッズ支援のためのチャリティーコンサートに行ってきました。重い病気を抱える子どもたちとその家族、また小児医療の最前線で奮闘する医師たちを支援するためのピアノコンサートとあって少し緊張しましたが、会場には温かい清らかな空気が流れていました。イタリア音楽を日本に広めた功労者で、社会貢献活動も積極的になさっているピアニストの関孝弘さんの演奏を耳にしたとき、心の奥深くに入り込んでくるような心地よさをおぼえました。耳で聴くというより全身で感じる……そんな不思議な感覚でした。

選曲も素敵で、演奏機会の少ない知られざるイタリアの名曲も楽しめる一方、誰もが耳にしたことのあるショパンの「別れの曲」「幻想即興曲」も楽しめて、お得な気分でした。テクニックや個性をことさらに主張しない、演奏者の内面がにじみ出るような美しくも温かい音の世界と、背筋の伸びた品のあるたたずまい。長く芸大で教鞭をとられただけあってお話も楽しく、すっかり魅了されました。ラストのバッハの名曲「シャコンヌ」は、神とか宇宙、もしくは個人の内面とか、そういった深いものと向き合っているような神々しさを感じる演奏でした。あっという間の 2 時間、幸せなひとときでした。

今回 8 回目のこのコンサートは毎年「愛する子ども達のために」というタイトルで CD 化され今年も 9 月に発売予定だそうです。コンサートと CD の収益はこども医療センターの患者の家族のための滞在施設「リラのいえ」の支援と、重度障害をもつ子どもたちの症状を音楽で改善できないかと進められているプロジェクトとに使われるそうです。このひとときに感謝して私も購入を決めました。

むかし子どもの頃「ありがとう」と言ってもらえるような人であることこそが大事だと思っていました。でも 40 歳を過ぎて「ありがとう」の気持ちをもつこと、ありがたいと感じることも同じくらいすごく大事なことで、それがある人生はとても幸せなものだと感じるようになりました。本当に至らない、小さな自分でも「ありがとう」の気持ちだけはもち続けたいと日々思っています。

このコンサートは、病と闘う人を支援する人、またその人たちを支援する人、といろんな形の支援とそれに対する「ありがとう」の気持ちとが輪になって広がっていて、その輪に加われたことがとても嬉しく、自然と「ありがとう」の気持ちが湧いてきました。そして自分にできる支援の形として、チケットを買って来年も参加したいと心から思えました。とても素敵な時間でした。ありがとうございました。

戸塚区　主婦（40 代）

「リラのいえ」との出会い

昨年の夏、保育士の大石さんからリラのいえを紹介され、保育のお手伝いをさせていただくことになりました。

私自身、4 人の子育ても終わりつつあり、これからの自分のあり方を模索していたときだったので、すぐにリラのいえを見学させていただきました。

美しい草花に囲まれた建物の室内はとても明るく清潔に整えられ、廊下やリビングには可愛いタペストリーが飾られています。おもちゃや手作りのお人形もたくさんあり、そこはやさしい空気に包まれた場所でした。それらがすべてボランティアの方々やご支援のお力で成り立っていることを佐伯さんから伺いました。また、リラのいえに関わる方々の熱意にも感動し、お手伝いしたいと思ったのです。

この施設では季節ごとに飾りつけがなされます。そのときの部屋は一段とにぎやかになり、子どもたちも興味を示し、「これなぁに？」と聞いてきます。そこから子どもたちとの会話が広がることも多く、保育する者にとってもとてもありがたいことです。ハロウィンや、クリスマス、お節句などの年中行事もここでは多くの方の善意により楽しい時間を過ごすことができます。

「こんにちは」と部屋に入ってきて、たくさんのおもちゃに目を輝かせ、すぐに遊び始めるお子さんもいれば、ママと離れて不安で泣き続けるお子さんもいます。そういうときは、ここが安心できる場所であると感じてもらえるまで抱っこで過ごします。慣れるのに時間のかかるお子さんも、いずれ保育士の腕から離れて遊べるようになってきます。そのときは、こちらもホッとしつつも、我慢してがんばっているお子さんたちのために心を配っていかなければと思います。そして、たっぷり遊んで笑顔で帰られるお子さんの姿を見るとき、こちらも嬉しくなります。

ママが安心して病院に行けるように、また、お子さんが安全で楽しく過ごせるように、こちらも体調を整え心のゆとりをもって接するよう心がけています。保育士としてはまだまだですが、ボランティアの方々や他の保育士のように、居心地のよい環境づくりを担う一員となれるよう努めていきたいと思っています。

保育士　内田 峰子

保育士の皆さま

「リラのいえ」での４年間

60 歳になって、定年後の就職が落ち着いた年の 11 月に「リラのいえ」のお手伝いを始めました。

「これまで営業の仕事をしてきた会社人間にできる仕事はあるだろうか？　庭掃除か草むしりでも……」と思って参加しましたが、今ではリラのスタッフとしてそれなりにお手伝いできているかなとの自信もつきました。そう、自分にできる範囲で利用者の方々に喜んでいただけるよう誠意をもって仕事をさせていただいています。

現在、日曜日から木曜日の週 5 日間、マンションの管理員の仕事をしていますが、休日である金曜日の午前中、月 2 回が私の出番です。前任者からの引継ぎを終え、9 時から 12 時まで。

まずホールにいらっしゃる利用者の皆さんへの朝のごあいさつから始まり、共用部の床清掃、各所のごみ捨て、退室される方のお見送りと部屋掃除、布団干し、入室があれば入室準備と充実した 3 時間があっという間に過ぎます。

家ではまったく妻任せの生活をしていますので、自分でも「よくできるな、妻にはこんな姿は見せたくない」と思っていましたが、家でリラの話をしているので最近では「私よりガラス拭きが上手だからやってネ！」と言われるようになってしまいました。

「リラのいえ」のお手伝いを始めたきっかけは、田川代表理事の役に立とうと後輩（田川君は高校剣道部の 8 期後輩）支援のつもりでしたが、リラの運営責任者の佐伯さんやスタッフ仲間の皆さんから、リラのお手伝いをする喜びを教えていただき、そして利用者の皆さんから「ありがとう」と言われる喜びで、あっという間に 4 年が経ってしまいました。

とくに私は布団干しをしていて、「この布団を使われる方は喜んでくれるかな？」と想像するときがいちばん楽しいときです。それから、利用者の子どもさんや預かり保育の子どもたちには、いまだ実現していない「孫」とのつきあい方の練習をさせていただいています。

リラのお手伝いを始めたとき、「65 歳まで」と決めていましたが、最近ではもう少し続けさせてもらおうかなと思い始めています。

ボランティアスタッフ　大松 健三

「リラのいえの未来を信じて」

「リラのいえ」のボランティアを始めて５年。本当にあっという間だったなぁと感じ、改めて５年の日々に思いを馳せました。

試行錯誤の連続の中で、常に滞在者の立場に自分を置き換え、目の前の問題解決に全力を尽くすスタッフの対応に学びながら (失敗もいっぱいあったけれど)、自宅にいては決して出会うことのない多くの素晴らしい方に会う機会もいただきました。

「5 周年記念式典」は今日まで地道に積み重ねてきたたくさんの人たち、一人一人「リラのいえ」に寄せる熱意や努力がさまざまな形となってここに結集し、それを皆で喜び合っているような。スターライツさんのダイナミックなステージも「リラのいえ」を励ましてくださっているような、やさしい温もりに包まれていて感無量でした。

「リラのいえ」は落ち着いた、それでも温かく人を思う優しさに溢れた場所です。そんな「リラのいえ」の日常がこの先も静かに繋がっていくよう改めて祈り、微力ではありますが、明日からまたがんばってみようと心新たにいたしました。何よりも治療のために全国から訪れるお子さんとそのご家族の困難に心を寄せながら。

最後に式典で私たちボランティアを代表してあいさつをしてくださった山浦さんの「夫妻でボランティアに参加しているおかげで、家の中での話題にも事欠かず、感謝をしている」という主旨のお話、私も全く同感！　本当にそう思っています。ボランティアとは言いながら、実は私自身が「リラのいえ」で数えきれないほどの刺激と喜びをいただいていることを実感し、心の中で「ありがとうね」を繰り返しているのです。

ボランティアスタッフ　町田　久美子

短期ボランティア体験

勤務先のボランティア休暇を利用して、2日間「リラのいえ」を体験させていただきました。お世話になりましたボランティアの皆さま、充実した2日間をありがとうございました！

「リラのいえ」を知ったきっかけは、2年前に開催された、横浜市NPO法人の映像祭です。自分の息子が脳性麻痺という障がいをもっていて、同じ横浜市のNPO法人で乗馬療法を続けており、同じ映像祭に出演していたのでした。

飛びこみのボランティア希望、しかも2日間という超短期。むしろ迷惑になる可能性の高さを考えると気持ちが縮みましたが、思いきって送ったメールにご対応いただいた佐伯さんの温かさに甘えてお邪魔いたしました。

ドキドキしながら足を踏み入れた「リラのいえ」は木々や植物に囲まれ、清々しい空間。初めて伺ったのに、少し懐かしい気持ち。木のお家ならではの体感ですね。丁寧に清掃されたお部屋には子どもたちが大好きな、リラ・プラップさんの動物の絵。家の周りの植栽も整っており、ボランティアのみで運営されていることが信じがたい、居心地のよい場所でした。

「食事は個室ではなく食堂で」などの何気ないルールの中に滞在者の心のケアが隠れていたり、面会に出発する保護者へボランティアの方が声をかけられたときに保護者の気持ちがほぐれる様子を垣間見るなど、ボランティアの皆さまの人柄、元気、温かさに触れる機会が多く、それがたいへん印象的でした。また世の中ではあまり知られていない、きょうだい児保育の重要性についていち早く認識、対応されており、さすがの一言です。

超低出生体重児の息子が生まれてから半年間、都内の病院に入院していた10年前を思い出しました。私が毎日面会に行けたのは病院が通勤経路に存在したからですが、同じNICUには途中のどこの病院でも受け入れてもらえず、山梨県は甲府やら、神奈川県は藤沢から救急搬送された小さな仲間たちもいました。当然、ママは毎日来ることができないため、ママの依頼を受けて特例でナースの許可を得、ママの代わりに毎日写真を撮っていた日々も今となっては懐かしい想い出です。

まだしばらく会社員と障がい児ママを兼任しているので多くはできませんが、リラのいえとは長くつながり、いつか大きく関われたら嬉しく思います。

企業ボランティア体験　安田　純子

利用者の声

伊豆七島から来ました。妊娠中に胎児診断でお腹の赤ちゃんに心疾患があることがわかり、出産後すぐの１回目の手術が決まり、「リラのいえ」で出産まで待機させていただくことになりました。

自分の家からも家族からも遠い所で、これから起こるかもしれない不安なことばかり考える毎日。同じように悩みをもちながらがんばっているお母さんたちに知り合えたことや、滞在者の気持ちに寄り添ってくれるボランティアの方たちとお話をすることで気持ちが楽になりました。

自宅においてきた上の子どもに会えなくて精神的に不安定になってしまったときもありました。が、「リラのいえ」のきょうだい児預かり保育の存在があったおかげで、上の子どもと「リラのいえ」で少しの間過ごすことができました。あの時間がなかったら精神的に安定して出産を待つことができませんでした。

「リラのいえ」のような場所があるという安心は、病気の子どもの家族の支えになっています。しかし、「リラのいえ」の運営や施設の維持のためにはボランティアの皆さんのたいへんなご苦労もあると思います。それなのにいつも笑顔で接してくださるボランティアの皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。私も、皆さんのように子どもたちに寄り添って、笑顔でいられる母親になれたらいいなと思います。

これから先、出産後の方が、悩むことや迷うことが増えると思いますが、子どもたちが笑っていられる方に進んでいきたいです。

（東京都の利用者より）

利用者の声

先日は５周年記念誌をお送りいただき、ありがとうございました。娘が退院して２年を過ぎましたが、こうして今でもリラのいえとつながりを持ち続けていられることはスタッフの皆さまのお気遣いあってのことと心から感謝いたします。

リラのいえでお世話になった当時を振りかえり、スタッフの皆さまの温かいご支援や、ご一緒させていただいたご家族の皆さんとの交流に想いを馳せています。リラのいえの設立からの歴史や想いを知ることは、病児やその家族がどう社会から支えられてきたかを利用者側も改めて認識するためにとても大切なことだと思います。それは単に一利用者としてだけでなく、今後どのように自分が病気やその支援と向き合っていくか考えられるからです。

当時の関わりから、子どもの病気や治療だけではない、家族を含めた多くの生活課題があることを知りました。２人目の子を生むことをためらうケース、母親が離職せざるを得なくなったり、仕事のために親が面会に来られないケース、それが子どもに与えている影響を目の当たりにし、考えさせられました。高齢者の介護や少子化問題への世間の関心は高いのに、病児の家族支援、きょうだい支援についての専門的な研究、調査の数は少ないようです。

私自身悔やまれるのは病児の心理、親の心構え、きょうだい児への接し方、自分自身の心身の健康の保ち方、さまざまな支援の受け方等……、入院する前にもっといろんな知識をもっていたら、もっと前向きに取り組めたのではないか、ということです。病児の家族支援が社会の当然の仕組みとして認められるように、私も経験者としてできることをしていきたいと思っています。

東日本大震災の日に退院した娘（姉）は中学２年、元気に自転車通学をしています。妹は小学５年になり、きょうだい喧嘩も多いですが、それなりにありがたいことです。成長期が終わったころにはまた手術、長期入院の可能性もありますが、今は思春期真っただ中、地元の中学や高校に行きたいという希望もあり、今は歩けているのでよしとしています。リラのいえを重篤・緊急度の高い方に優先的に使っていただくには、私のような県内・長期入院のケースの場合、どうやって病児を支える家族の生活基盤を整えていくか、病児の治療計画と同時に考えていかなければならない課題だと思います。

スタッフの皆様にはご苦労の多いことだと思いますが、遠くから応援しています。何よりもリラを支えておられる皆さまが健康でありますように。

（県内在住の利用者より）

利用者の声

「優しい顔つきになったね、お母さんの顔になった」とは、ボランティアの方に言われた言葉です。息子の２回目の手術が終わり、検診にリラのいえを利用させてもらったときのことです。そう言われて、やっと緊張から解放されたのだと気づき、安堵と嬉しさがこみ上げてきました。

私は海外で出産をしました。出産直後、息子の疾患がわかり、隣の市にある大学病院のNICUに運ばれました。私も一泊二日で退院し、息子の入院している大学病院に夫と共に通いつめました。

入院生活中、医療通訳がついたにもかかわらず言語の壁は厚く、医療制度の違いもあり、診断がくだされるまで心の休まるときがありませんでした。日本の「国民皆保険」と違い、検査や支払いの件で保険会社と交渉し、退院後は検査の薬を自分で入手しなければなりません。保険会社経由でなければ購入できない特殊な薬だったため、高額で渋る保険会社と交渉を重ね三カ月経ってやっと薬が届いたときの喜びは今でも覚えています。

すべての交渉に疲れ、どうにもならなかったときに、アメリカで知り合いになったお母さんが、以前こども医療センターの看護師さんをしていたことがあり、同病院を勧めてくれました。夫を説得し、横浜のこども医療センターで受診した際、私は「なんて素晴らしい病院なのだろう！」と思いました。すべて病院にお任せでき、息子のことだけを考えられることに安心し、同病院で手術をすることにしました。

そして息子の２回の手術の間、リラのいえに滞在させていただき、佐伯さんを初めとしたボランティアの人たちの心配りに心癒され、子どもに何かしらの症状をもつ親御さんたちとも知り合い、お話しできたことは、私にとって大きな心の支えとなりました。

先日リラのいえで、夫と同じ州に住む方にお会いしました。その彼女は「日本人は親切。とくにここの施設の人たちはとても親切です」「あなたたちがなぜ佐伯さんをリラのいえのお母さんと呼ぶのかわかった」とおっしゃっていました。

息子は術後の回復も良好で、元気に毎日を過ごしています。こども医療センターの先生や看護師の皆さま、保育士さん、そしてリラのいえの佐伯さんを初めボランティアの皆さまに深く感謝いたします。ありがとうございました。今後もいろいろなことが待ち受けていると思いますが、リラのいえでいただいたやさしさを忘れることなく、子どもの成長を見守っていきたいと思います。

（アメリカからの利用者より）

■リラのいえ・利用状況（2013 年 1 月～ 6 月）

月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
家族数	22	30	43	28	27	35
宿泊数	213	192	227	211	212	219
利用者数	437	376	442	370	345	362
稼働率	85.9%	85.7%	91.5%	87.9%	85.5%	91.3%

■きょうだい児預かり保育・利用状況（2013 年 1 月～ 6 月）

月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
件数	30	42	44	44	42	43
人数	30	44	44	46	44	44
預かり時間	104.5	137.5	126.5	117.5	131.5	145.0

■地域別利用者（2013 年 1 月～ 6 月）

北海道	青森	秋田	山形	福島	茨城	栃木	埼玉	群馬	千葉	東京	新潟	長野	静岡	愛知
4	2	11	3	8	9	1	1	1	7	17	5	1	4	2
岐阜	三重	大阪	岡山	兵庫	愛媛	島根	広島	福岡	長崎	沖縄				
2	1	9	1	1	1	2	1	2	1	3				
神奈川県内	南足柄市	足柄上郡	中郡	小田原市	逗子市	座間市	厚木市	秦野市	横須賀市	三浦市	相模原市	藤沢市	大和市	茅ヶ崎市
	5	5	1	2	2	1	6	9	6	2	14	2	5	4
平塚市	川崎市	**市内**	港北区	西区	中区	鶴見区	都筑区	**海外**	アメリカ					
5	3		1	1	1	1	1		2					

■平成 24 年度貸借対照表

現金預金	71,471,902
売掛金・未収入金	475,000
棚卸資産	434,000
その他流動資産	225,450
建物	70,958,411
建物建築用特定資産（市債・県民債）	17,500,000
ホスピス建築用特定資産	25,000,000
その他固定資産	13,000
資産合計	**186,077,763**

未払金・未払費用	693,933
前受金	0
その他流動負債	0
固定負債	0
正味財産	185,383,830
負債及び正味財産計	**186,077,763**

■平成 24 年度収支計算書

会費収入	147,000
寄付金収入	32,124,980
助成金収入	7,800,000
物品販売収入	90,000
ﾁｬﾘﾃｨｰｺﾝｻｰﾄに関する事業収入	2,078,500
ﾊﾞｻﾞｰに関する事業収入	116,710
滞在施設利用料収入	5,119,600
その他の収入	511,982
当期収入合計	**47,988,772**

闘病児及び家族の支援施設の整備及び運営に関する事業費	10,673,138
闘病児に関わる法人・団体等への助言・支援に関する事業費	0
闘病児及び家族の交流の場の提供に関する事業費	945,621
難病の子ども達の課題を解決していくための調査及び提言に関する事業費	0
闘病児に関わるボランティアの育成と派遣に関する事業費	73,780
チャリティーコンサートに関する事業費	1,243,274
管理費	1,357,326
建物建築用特定資産繰入	4,500,000
ホスピス建築用特定資産繰入	25,000,000
その他の支出	0
当期支出合計	**43,793,139**

当期収支差額	4,195,633
前期繰越収支差額	67,276,269
次年度繰越収支差額	71,471,902

活動報告（2013 年 1 月～ 6 月）

1 月　6 日	個室全室の風呂排気口・ホール空調・レンジ清掃作業（トミ管理サービス）
7 日	神奈川県立南養護学校による見学（教諭 7 名）
9 日	ボランティア希望者による見学
18 日	神奈川県職員による見学（8 名）
2 月　6 日	川崎市市民・こども局市民協働推進課による見学
11 日	うららかコンサート（Star lights from VOJA）　筑波大学付属病院と共催
14 日	洗足学園音楽大学教員・学生による見学
17 日	夢ファンド　寄付者との交流会参加・パネル展示
18 日	横浜桐蔭大学　木下先生による見学
18 日	県議会みんなの党議員による見学（3 名）
26 日	馬頭琴コンサート開催（モンゴルからのお礼コンサート）
3 月　3 日	避難訓練（ボランティア、利用者参加）、ひな祭り食事会
4 日	ボランティア希望者による見学
6 日	センター相談室職員による見学
21 日	ボランティア希望者による見学
26 日	お花見　リラ、桜の木の下で
27 日	ボランタリー基金 21、卒業発表会
4 月 10 日	ゾンタクラブ、神奈川県総務局による見学
15 日	こども医療センター新採用者による見学（65 名）
16・17 日	相談室（2 名）、神奈川県本部事務局長他（8 名）による見学
24 日	横浜桐蔭大学サービスラーニング後期受け入れ開始（3 名）
26 日	消防査察
5 月 18 日	スマイルオブキッズ定期総会
6 月　1 日	リラのいえ開設 5 周年記念式典（こども医療センターホールにて）
11 日	横浜弁護士による見学（参加 16 名）
15 日	チャリティーピアノコンサート（ミューザ川崎にて）（来場者 672 名）
17 日	企業ボランティア休暇を利用の体験希望者受け入れ（～ 18 日）
20 日	栃木県宇都宮市から施設運営・きょうだい児預かり保育事業見学
27 日	川崎市個人市民税の控除対象となる（始期 25 年 1 月 1 日より）
7 月　6 日	重症心身障害児と家族のためのバギーコンサート協賛（演奏：関 孝弘氏）

認定特定非営利活動法人スマイルオブキッズの活動へのご支援、ありがとうございました

2013 年 1 月 1 日から 6 月 30 日まで
敬称を略させていただきます。記入漏れや誤字等ありましたらお許しください。

【寄付によるご支援者】

小林整治 / 伊藤是孝 / 山内裕子 / ㈱ザンゴジャパン / 満永文 / 張健 / 武内大佳 / 千久田恵 / 安嶋裕美 / 國武洋子 / 川村博 / 大川須美 / 十文字貞夫 / 斉藤綾子 / 匿名 / 鈴木有子 / 小峰幼稚園 / 渡辺泰子 / 柳澤京子 / 下島和子 / 小瀬村芳明 / 袖山忠一 / 川上賢治 / 中澤裕一 / 天野由紀 / 水戸陽子 / 石関トヨ / 細谷和一郎 / 瀧口秀之 / 岡和子 / よしいけ内科クリニック / 森田知子 / 小山田豊 / 坪田輝子 / 水島朝子 / 三石佳子 / 須藤ナヲ / 市川利子 / 大矢敏子 / 横山新一郎 / 大久保照子 / 丸茂弘子 / 大木宏之 / 伊藤寿子 / 島谷健一 / 寺澤智恵子 / 佐藤治郎 / 匿名 / 林勝 / 黒澤宗剛 / 豊田ﾌﾞﾝｹｰﾄ / 青木茂 / 石橋一子 / 守谷明美 / 黒田靖 / 小関咲子 / 真岸冨子 / 安西博 / 宮北那智子 / 武居正則 / 原公泰 / 阿比留聰子 / 青柳充彦 / 岡田章 / 岩崎真一郎 / 岩崎幸代 / さいとう小児科 / 高橋房子 / 有山輝雄 / 井林昌子 / 吉田文雄 / 碓井裕子 / 鶴田直子 / 安井泰子 / 川北誠 / 早川五三六 / 鈴木将彦・瑞穂 / 石田美千子 / 安藤弘子 / 岩崎純士 / 吉田昭寿 / 川上美祢子 / 伊藤紘一 / 須磨康子 / 平野和之 / 今井基子 / 渋谷佐和子 / 内藤三紗子 / 澤島政行 / 平田啓子 / 石森眞基子 / 川島浩子 / 横浜和夫 / 小牧誉弘 / 加藤きよ子 / 秋山美代子 / 山内登紀子 / 吉村みち子 / 田川正志 / 相原きよみ / 丹野ハル子 / ホンダオート神奈川㈱ / 鈴木博子 / 鴨井義尚 / 白幡広記 / 高橋宏之 / 藤田小児科 / 匿名 / 渡邊良晴 / 久保順 / 清田熙 / 鈴木好子 / 鍋島絢子 / 根本孝江 / 安保さよ子 / 小林整治 / 鈴木昭 / 吉田眞弓 / 東海林豊 / 森山喜代子 / 名和幸子 / 中川美佐子 / 石井康博 / 天海百合子 / 井島雅代 / 佐藤綾子 / 伊勢屋呉服店 / 浅見和夫 / 永澤達一郎 / 吉田紀子 / 若杉章子 / 西平浩一 / 大野乃里子 / 野口康英 / 芹田俊雄 / 時田初代 / 森功 / 浅川冨美子 / 武川幸子 / 長谷川元保 / 阿部公子 / 古家春美 / 阿出川俊夫 / 松田幸子 / 小口弘毅 / 波多野とよ子 / 石丸彰 / 上野皎子 / 南智彦 / 落合光美 / 本多八重子 / 松島純子 / 根本一樹 / 柴田和代 / 福島俊子 / 安嶋裕美 / 羽鳥廣法 / 大野寿子 / 匿名 / 小川副代 / 木下和子 / 真道典子 / 西尾博 / 花田大 / 岡田満紀 / 中村忠雄・洋子 / 花井勝三 / 伊藤和弘 / 匿名 / 張健 / 田川志津恵 / 横溝和子 / 早川禎子 / 小林整治 / 鈴木幸夫 / 井川孝文 / 泉水恭子 / 沼沢静江 / 村上次代 / 多田満惠 / 織田紘子 / 小野ヨシ / 安達かほる / 草場春美 / 福田賢司 / 関英一郎 / 池田龍子 / 三浦則子 / 小倉由記子 / 萱畑佳代子 / 菅頭妙子 / 吉田敏子 / 今野和夫 / 芦澤悦子 / 鎌田慎次 / 山下順三 / 田川尚登 / 松尾忠雄 / 樋口智子 / 宮治容子 / 鶴田清子 / 横浜友の会中方面 / 大松健三 / 安嶋裕美 / 藤田和夫 / 匿名 / 匿名 / 柿崎守 / 山浦襄二 / 張健 / 塩森芳枝 / 小林整治 / 武内啓介 / 堀川浩邦 / 羽田貞子 / 山田和嘉子 / 原豊文 / 相磯しげ子 / 片岡陽子 / 匿名 / 白鳥まり / 橋本洋子 / 中澤裕一 / 尾花清子 / 下島和子 / 山田寿々子 / 田辺絹枝 / 両角薫 / 小畑江至 / 原田積善会 / 碓井裕子 / 間宮節子 / 相馬かよ子 / 酒井伴美 / 都田和朗 / 田島香代子 / 神林嬉甫子 / 大木宏之 / 堤京子 / 桐生秀昭 / 南区邦楽協会 / 小川副代 / 竹田利子 / 十文字貞夫 / 茂田悦子 / 岩口泰広 / 塩見あき子 / 手塚照子 / 水島朝子 / 白川光政 / 相田敬子 / 匿名 / 吉田眞弓 / 川上美弥子 / 土居久子 / 野村愛 / 斉藤雅美 / 安達かほる / 阿出川俊夫 / 斉藤俊雄 / 平田啓子 / 横溝和子 / 原公泰 / 横山新一郎 / 川島麻子 / 森山喜代子 / 西井弘 / 今井基子 / 林原修 / 黒岩希 / 田川正志 / 幾度すぎえ / 藤田美子 / 坂井匠子 / 石井なぎさ / 井上秀枝 / 岡田浩子 / 安藤弘子 / 根谷崎敏彦・百合子 / 大久保八重子・望 / 川村征雄 / 長谷川元保 / 匿名 / 桑原かつ子 / 高橋恵子 / 代田泰子 / 草場春美 / 若杉章子 / 遠藤信行 / 金城重盛 / 吉田賢一 / 樋口珠子 / 後藤彰子 / 宗像正子 / 麻生俊英 / 安井泰子 / 吉森英孝 / 柳沢光枝 / 豊田芳子 / 川島勝美 / 張健 / 鶴見孝子 / 上戸さち子 / 高橋光雄 / 秋山美和子 / 門田彰三 / 小瀬村芳明 / 樋口とみ子 / 安嶋裕美 / 小宮弘毅 / 吉塚弥生 / 角田時子 / 志澤直樹 / 匿名 / 須磨康子 / 秋山美代子 / 黒田節代 / ㈱トミ・管理サービス / 大黒千代 / 匿名 / 岩崎幸代 / 細谷和一郎 / 高木和志 / 武井喬 / 小林整治 / 村瀬博子 / 高橋静子 / 西平浩一 / 久住まち子 / 土谷勇雄 / 田代信行 / 佐々木利明 / 中西英樹 / 芹田俊雄 / 齊藤真紀 / 千葉喜美子 / 石井康博 / 山室陽子 / 椋棒弘子 / 田川志津恵 / 川原敏子 / 藤井惇子 / 中村武美 / 小宮弘毅 / 高橋徳美 / 笠原友子 / 沼田利夫 / 岡田章 / 天野由紀江 / 佐藤千穂 / 吉田久美子 / 増井貞人 / 金子正史・瑛子 / 伊澤睦子 / 関博至 / 羽鳥廣法 / 本橋一樹 / 小林京子 / 高橋比呂子 / 池田勘蔵・文子 / 安嶋裕美 / 丸茂弘子 / 井上純子 / 石村由利子 / 木谷博子 / 高橋直美 / 村山明子 / 岩松祥江 / 張健 / 鈴木康生 / ㈱ユック舎 / 福永明美 / 野崎信子 / 飯田信子 / 匿名 / 田中朝美 / 菅頭妙子 / 多田満恵 / 今村泰子 / 宮内喬夫 / 永井

進 / 田川志津恵 / 佐々木利明 / 小林整治 / 京浜ｽﾁｰﾙ工業㈱ / 木原芳嗣 / 山下順三 / 矢島美代 / 黒澤信男 / 加藤光子 / 吉原富美子 / 石川容子 / 東生商事 / 北村敏代 / ㈱ザンゴジャパン / 土屋タキ子 / 伊澤リヨ / 山本さとみ / 森田雅子 / 扇谷あづさ / 羽田貞子 / 須佐井信子 / 小原庸子 / 安嶋裕美 / 森晃一 / 吉村純子 / 岩ヶ谷幸子 / 張健 / 佐藤節子 /

【よこはま夢ファンド】（横浜市が掲載を確認された方のみ５月まで）
大竹裕也 / 府川俊彦 / 大竹裕也 / 大竹裕也 / 大竹裕也 / 大竹裕也 / 大竹裕也 / 石井康博

【物品によるご支援者】
沼沢静江 / 宮内喜代美 / 加藤きよ子 / 佐藤誠洋 / 佐々木聡 / 大竹裕也 / 大塚民枝 / 小荷田 / 千葉ひろみ / 伊藤久美 / 菅原一昭・千穂・豪 / 阿比留聰子 / 成田さき / 工藤友子 / 水谷 / 大山さやか / 花王 (株)/ 草場春美 / 斉藤綾子 / 大橋彩乃 / 天海百合子 / 岡本信治 / 満永文 / 山本修司 / 柿崎守 / 守谷明美 / 小澤美代志 / 遠藤信行 / 新田恭子 / 蒲田翔子 / 中村朋美 / 東横商事 / 貫井敏子 / 幾度すきえ / 地湧廣農園 / 小出百香 / 高田雅子 / 小嶋冨美子 / 小松眞子 / 林惠子 / 上原達也 / 高橋敏子 / 福永明美 / 坂井淳子 / 白谷弥生子 / 中村康子 / 松沢啓之・靖子

＊ 10 月 19 日 (土) には「リラのいえ」にて恒例のバザーを行います。
　バザー用品等の遊休品のご提供を常時受け付けております（新品同様のお品物に限らせていただきます）。
＊嗜好品（お茶・コーヒー・紅茶等）は利用者用として歓迎します。

【その他のご支援】
＊東横商事さまより、月２回食品の提供、社員の皆さまによる清掃作業等のご支援をいただきました。
　（提供食品詳細：飲料水 1,440 本、麺類 324 食、ご飯類 376 食、スープ他 48 食）
＊整膚マッサージ／リフレクソロジーを毎月１回、利用者の方に行っていただいています。
＊手作りケーキを毎月およびイベントごとにお届けいただいています。
＊セカンド・ハーベストジャパンさまより、食品の寄付をいただきました。
　1/26、2/16、3/9、4/13、5/11、6/8、7/8 たくさんの食材をいただきました。
＊クロネコヤマトさまにはご家族が帰宅する際の宅急便 53 個を均一料金にてお届けいただきました。
　大きく、重い荷物もありがとうございました。
＊管理・運営、近隣の清掃、保育補助に月 40 名以上のスタッフが３時間交代で活動に参加、
　当直者約 10 名は夜８時から翌朝９時まで、24 時間管理を行っております。
　お近くへお越しの節にはどうぞ、お立ち寄りください。
＊保育士は手術のための待機保育を早朝から行うほか、夕方・休日もできる限りの対応を行っております。

■スマイルオブキッズ主催のコンサート予定 (3 公演出演：亀渕友香＆ VOJA)

「障害がある子どもと家族の集い～地域がささえるふれあいコンサート」を開催します！
ぜひ子どもたちの笑顔を見に来てください！

[日時]
８月 10 日 (土) ① 14 時 30 分開演
　　11 日 (日) ② 10 時 30 分開演　③ 13 時 30 分開演

[場所]
障害者文化施設・横浜ラポールシアター（ＪＲ新横浜駅より徒歩 10 分）

[参加]
無料

当ＮＰＯへの寄付金・賛助会費は、国税（所得税・法人税・相続税）以外に神奈川県・横浜市条例指定・川崎市条例指定（25 年 1 月分より）地方税（住民税）の控除対象となりました。

【支援サポーターのお願い】

◇ 賛助会費として（1 口 3,000 円）
◇ 寄付として　※当団体からの領収書は寄付金控除の対象になります。

■賛助会費・寄付金のお振込先：
郵便振替口座名義：NPO 法人　スマイルオブキッズ
郵便振替口座番号：００２５０－０－１１３８１７

【物品寄付のサポート】

◇ 施設で使用する未使用の物品の提供
日用消耗品・食品（嗜好品他）・雑品・未使用の切手
◇ バザーで販売する未使用の日用品雑貨・衣類の提供

【労力・時間を提供するサポート】

◇ 施設事務所での電話対応・入退室準備・案内
◇ 施設内外の環境整備（施設内の掃除・施設外の清掃・草、木の手入れ）
◇ 利用者への対応（例：買い物代行、送り迎え、保育ボランティア）
◇ 専門のサービス提供（ヘアーカット・セラピー・料理・バザー用品手作り）

リラのいえ
〒 232-0066　神奈川県横浜市南区六ッ川 4 丁目 1124-2
電話・FAX：045-824-6014　e-mail：lilanoie@lilac.plala.or.jp

会報発行者：認定特定非営利活動法人 スマイルオブキッズ
http://www.smileofkids.jp/　e-mail：toiawase@smileofkids.jp

編集：㈱ユック舎　上野 真